演習課題5 レポート

0500319521

尾崎凌明

1

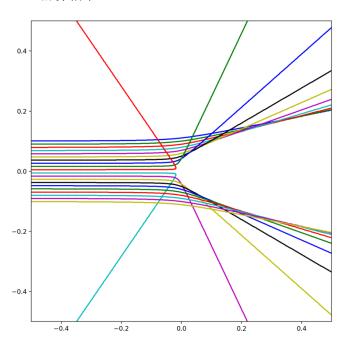
1.1 計算

微分方程式

$$\frac{d^2\mathbf{x}}{dt} = \frac{\mathbf{x}}{r^3}$$

を20個の初期値の対して、Sympletic 法を用いて解いた。

1.2 計算結果



計算結果は左図のようになった。(図1)

図 1 相対論を用いない場合の計算結果

2

2.1 計算

1とは違い、相対論を用いて解く。この場合、微分方程式は次のようになる。

$$p = \gamma v$$

$$\frac{d\boldsymbol{p}}{dt} = \frac{\boldsymbol{x}}{r^3}$$

このとき、 $p = \gamma v$ から、

$$\frac{d\boldsymbol{p}}{dt} = \frac{d\gamma}{dt}\boldsymbol{v} + \gamma\boldsymbol{a}$$

よって、

$$\frac{1}{\gamma}\frac{d\boldsymbol{p}}{dt} = \frac{1}{\gamma}\frac{d\gamma}{dt}\boldsymbol{v} + \boldsymbol{a}$$

$$= \frac{1}{\gamma} \left(\frac{d\gamma}{dv} \cdot \frac{dv}{dt} \right) v + a$$

$$= \sqrt{1 - \frac{v^2}{c^2}} \left\{ \frac{\frac{v}{c^2}}{\left(1 - \frac{v^2}{c^2}\right)^{\frac{3}{2}}} \cdot a \right\} v + a$$

$$= \frac{\frac{1}{c^2}}{1 - \frac{v^2}{c^2}} v(v \cdot a) + a$$

$$= \frac{\frac{1}{c^2}}{1 - \frac{v^2}{c^2}} vv^T a + a$$

$$= \left(\frac{vv^T}{c^2 - v^2} + E \right) a$$

したがって、

$$a = \frac{1}{\gamma} \left(\frac{vv^T}{c^2 - v^2} + E \right)^{-1} \frac{d\mathbf{p}}{dt}$$
$$= \frac{1}{\gamma} \left(E - \frac{vv^T}{c^2} \right) \frac{d\mathbf{p}}{dt}$$
$$= \frac{1}{\gamma} \left(E - \frac{vv^T}{c^2} \right) \frac{\mathbf{x}}{r^3}$$

となって、運動量pを含まない微分方程式が得られた。この方程式を、同様に 20 個の初期値に対して解いた。

2.2 計算結果

計算結果は右図のようになった。(図2)

3 考察

相対論を考慮した場合は考慮しなかった場合に比べて、軌道はより曲がらなくなっている。

相対論では、原点付近で速度が上がると質量が増え、中心から受ける力に対して、加速度が小さくなるからだと考えられる。

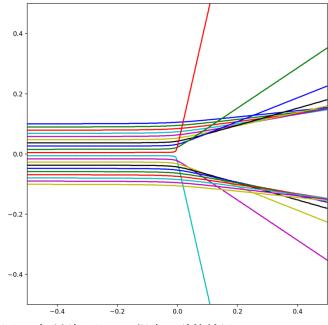


図 2 相対論を用いた場合の計算結果